

第1回：オリエンテーション

日 時：5月28日（土） 13:30～16:30

会 場：江東区役所 7F会議室

内 容：オリエンテーション

- ・今年度の主旨と取り組みを説明しました。
- ・UD理解のため、アドバイザーからお話をうかがいました。
- ・その後、グループに分かれて、サービス提供者とユーザーの意識のギャップについて話し合い、UD研修に盛り込むポイントを検討しました。

プログラム：

13：30 【開会】あいさつ

13：35 ①【今年度の進め方】趣旨と取り組みの内容

14：00 ②【講座】ユニバーサル・デザインまちづくりと意識啓発
(40分) ～権利か恩恵か～

講師 川内 美彦さん

14：40 ③【グループワーク】

- (60分)
- ・グループ内で自己紹介
 - ・サービス提供者とユーザーの意識のギャップについて
 - ※サービス提供者が「知っているつもり」なことと
 - ユーザーが「理解されていない」と感じる意識のギャップを出し合う。
 - ・UD研修プログラムで「伝えたいポイント」を抽出

15：40 ～休憩（10分）～

15：50 ④【全体で発表と意見交換】

(35分)

16：25 事務連絡、アンケート記入

16：30 終了

①【今年度の進め方】

これまでの取り組み経緯について、パワーポイントを使って説明しました。

江東区ユニバーサルデザイン まちづくりの経緯

平成28年5月28日

江東区のユニバーサルデザインまちづくり
の基本的な考え方

●ユニバーサルデザインまちづくりとは：

年齢・性別・国籍・能力などの違いを尊重しつつ、だれもが使いやすく安全で安心な環境をつくるため、区と区民および事業者が協働で進めるまちづくり

という考え方

なぜUDが必要か

- これまで障がい者や高齢者でも利用しやすいまちをつくるために、バリアフリーの考え方でまちづくりを進めて来ました。
- しかし、まちにはいろいろな人が住んでおり、**誰もが利用しやすい**まちづくりの重要性が高まってきました。

ユニバーサルデザインまちづくり ワークショップについて

- UDを推進するためには、個々の能力や様々な立場の人のことを考え、理解することが大切です。
- UDまちづくりワークショップは、多くの人のことを考える機会を広げ、一人でも多くの人が利用しやすい「まち」をつくるための取り組みです。

江東区長期計画

- 江東区では長期計画に基づきワークショップや出前講座を実施しています。




やさしいまちづくり推進計画

- 平成16年度～25年度まで、やさしいまちづくり推進計画に基づき計画を進めてきました。




江東区のやさしいまちづくり 平成13年から ワークショップで取り組んでいます。



江東区のユニバーサルデザインワークショップ：区と区民の協働で、まち歩きや作業を通して課題や現状を共有し、アイデアをまとめたり、合意形成をしてまちの整備につなげたり、冊子やDVDをつくってきました。

「やさしいまちの誘導システム」は、ワークショップの成果のひとつです。視覚に障害がある人をはじめ、車いす使用者や高齢者などだれにでも使いやすく、わかりやすいサインシステムが実現しました。



ユニバーサルデザインを担う 人づくりへの展開

ワークショップでの検討から出された方向性：
→将来の江東区のまちづくりを担う子どもたち
から、ユニバーサルデザインを広げていきたい。

平成20年度～

小学生にもわかりやすい ハンドブックをつくろう！！

・どんなハンドブックをつくったら良いか？



ハンドブックを使う、子どもたちとの交流を通して検討

いろいろな障害のある人と子ども達の交流
→子ども達はどんなふうにユニバーサルデ
ザインを理解してくれるだろうか？



ハンドブックと DVD の完成



ハンドブックの活用

- ・小学校の授業内で活用してほしい
→ワークショップ参加者と小学生
の出前講座をしよう！



→区職員とやさしいまちづくり相談員が実施

平成27年度はマップづくり





平成28年度は
民間企業に向けた「講座」
プログラムをみんなで作ります

何をどう、伝えたいですか？



金融機関



商店街



民間企業



ユニバーサルデザインのまちづくりを 実現する視点(平成26年度の成果)

- 視点1 多様な意見を取り入れるための施設整備の実現
- 視点2 公共交通機関や建築物・公共的施設の整備・改修
- 視点3 自由で円滑な移動のための取り組み
- 視点4 だれもがわかりやすい情報提供の実現
- 視点5 ユニバーサルサービス※によるおもてなしと人材育成
- 視点6 江東区らしさを活かすユニバーサルデザイン

②【講座】ユニバーサル・デザインまちづくりと意識啓発

～権利か恩恵か～

川内 美彦 教授



●「社会モデル」の考え方

A さんが出て行きやすいように社会環境を変える＝「社会モデル」と言います。

社会に出るには、ある一定の能力が必要です。

例えば、「蹴上げ 15cm の階段」があるとします。最初、A さんは足があがりませんでしたが、リハビリして 14cm はあがるようになりました。しかし、駅の階段は 15cm あるので社会には出て行けません。

そこで、14cm までしかあがらないのであれば、駅の階段を 14cm にすればいいというのが「社会モデル」の考え方です。

段差などの数値の目安（ミスターアベレージ）は、軍隊の兵隊さんを標準にしてつくってきました。「A さんが使えなくなったことに問題があるので、リハビリがんばってください」と個人の問題にされてきました。しかし、重度の人はリハビリにも限界があります。人が社会に関われるようにするには、社会の努力も必要です。

●権利と恩恵

視覚障害者が朗読サービスを受けようとした。いつも難しい小説だけでは飽きるので、エッチな小説を頼みました。しかし拒否されたのです。障害ある人が読むべきではない、もっと清く正しい本を読むべきだと思われたのかも知れません。

憲法に基づき、だれでも受けられる権利があります。しかし、収入が障害があると、権利を恩恵と考える風土が、この国にはあります。「あいつは得している、控えめに暮らせ。エッチな本は勿体ない。」ということなのでしょう。

●心やさしさ思いやり

日本の社会全体で、「心やさしさ思いやり」が必要と言っていますが、なぜ「権利と恩恵」を切り離して考えられないのでしょうか。

《恩恵》と考えているので、障害者の社会参加をすんなり受け入れられないのだと思います。車いすは見苦しい、白杖を持って歩く人が嫌だと思っても、人々がどう考えようと、人々にやさしさがなくても、《権利》として障害者の社会参加は実現しないといけません。思いやりは、平等な権利の社会参加の上にあるものです。

③【グループワーク】 ④【全体で発表と意見交換】

- ・グループ内で自己紹介
- ・質問や意見交換：サービス提供者とユーザーの意識のギャップについて
：UD研修プログラムで「伝えたいポイント」を抽出

◆質問：ワークショップの進め方

- ・なぜ大人向けの研修にしたいのか →区の長期計画に「UD理解」34%⇒60%にしたいとある（5年後）。「UDとは何か」を伝える。 商店街/金融/民間事業者でなければいけない訳ではないが、身近な3つを選んだ。
- ・商店街でどうやって研修をするのか？ →買い物をしながら、店員さんに伝える。
- ・寸劇とは？ →おこりがちな出来事をパワポではなく、演劇仕立てで伝える。
- ・ゴールはどこか？ →意識啓発が継続できると良い。

◆質問：川内先生のお話

- ・合理的配慮の具体例を知りたい
→基準がない。

小さな子ども向けのイスを置いておくのも配慮

メニューが読めない人への説明を口頭で行う、レジで表示を示すなど

合理的配慮はケースバイケース、国は対応要領は自治体に任せている

日本ではしくみが無い、お店で、障害者と店員さんが喧嘩になっても行司がいない、民間でやってくれとなっている。

- ・どうして恩恵になったのか？

→お金を受給することで、清く正しく（心やさしく）暮らせと思うのではないかな。

しかし、権利は憲法で定められている。

障害者権利条約では、「他のものとの平等」をうたっている、他の人と全く同じという意味ではない、その人に応じたやり方でできること。

